

第1回環境基本計画 市民ワークショップの記録

1. ワークショップの目的

第三次環境基本計画の策定に向けたワークショップの第1回として、「自然環境」と「循環型社会」をテーマに、現状の課題整理(強みと弱み)、改善に向けたアイデア出しを行うワークショップを開催しました。

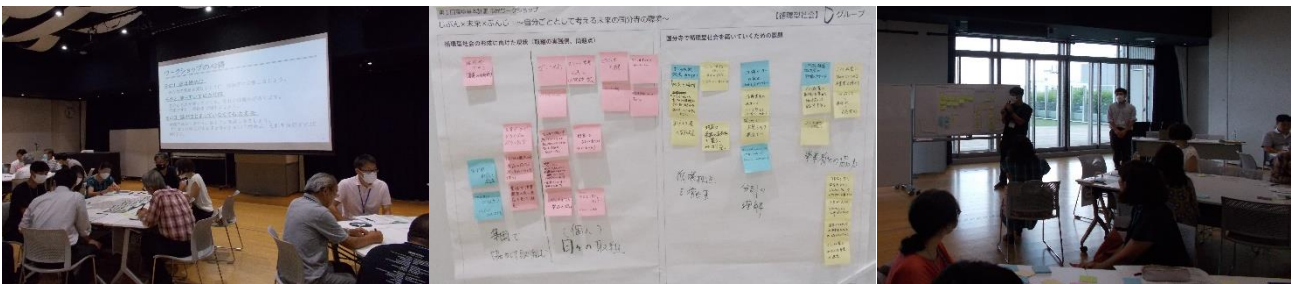
2. ワークショップの概要

日 時: 令和5年8月 19 日(土)10:00~12:40

場 所: リオンホールA(国分寺駅北口 cocobunji WEST 5階)

参加者: 20 名

事務局: 国分寺市まちづくり部まちづくり計画課



3. プログラム

(1)開会のあいさつ・企画説明

(2)ワークショップ

テーマ①「自然環境」

- ・ 話題提供 (スライド)
- ・ グループワーク 【私たちが思う、国分寺の自然環境の「強み」と「弱み」】
【未来の国分寺の自然環境をよりよくするためのアイデア】
- ・ 発表

テーマ②「循環型社会」

- ・ 話題提供 (スライド)
- ・ グループワーク 【循環型社会の形成に向けた現状 (取組の実践例・問題点)】
【国分寺で循環型社会を築いていくためのアイデア】
- ・ 発表

(3)閉会のあいさつ

4. グループの発表内容

参加者 20 名が4グループに分かれ、グループごとに第1回のテーマ「自然環境」「循環型社会」について、現状と課題等を議論しました。テーマ別にグループごとの発表内容を以下に整理します。

テーマ 1「自然環境」

A グループ

■ 現状の課題整理： 私たちが思う、国分寺の自然環境の「強み」と「弱み」

地形や土地利用について

強み：坂が多いまちなみ、宅地と農地が共存している。

弱み：坂が多く住みづらい。

災害について

強み：地震に強く、水害が少なく、安全性の高い地域である。

緑・農地・水について

強み：昔ながらの湧水や用水、農地や樹林地が残っている。

：公園が多く、湧水と親しめる手押し式ポンプの井戸が設置された公園もある。

：農産物として、植木の町と呼ばれていたほど、東京における植木生産の中心地である

：果物・野菜のこくベジ利用に賛同する市民が多い。

弱み：昔に比べ、宅地化によって農地、樹林地が大きく減少した。

：身近な雑木林も、管理が大変、相続等の理由で伐採され緑が少なくなった。

：ナラ枯れやスズメバチの発生などにより生物多様性の保全など生態系の変化が生じている。

交通について

弱み：府中街道や五日市街道における渋滞がしばしば発生している。

：武蔵野線の高架や西武線の路線が入り組んでおり、まちの景観を損ねている。

■ 改善策： 未来の国分寺の自然環境をよりよくするためのアイデア

- ・ 東京都のみどり率の基準並みに改善するため、市街化や交通整備等の開発を見直し、自然環境の維持、公園の多さ、植木といった昔ながらの産業の維持が考えられるのではないか。
- ・ 緑地や公園の維持や整備に向けた具体的な方向性を話し合う。
- ・ 市民と市が協働により緑と水の保全のための指導を強化するべきである。
- ・ 公園の緑地の整備にシルバー人材センターの活用を継続して進めていくことも重要である。
- ・ こくベジのPRを継続してより認知度を高めていくことが重要である。
- ・ 国分寺市の下水は合流式のため中水利用や、地下水保全を目的とした大規模な雨水浸透策を考えるべきである。
- ・ 生物多様性に関する小中学生への学習支援が必要である。

B グループ

■ 現状の課題整理： 私たちが思う、国分寺の自然環境の「強み」と「弱み」

緑・農地・水について

強み： 緑と建物のバランスが都心よりも高く、涼しい。

： エックス山や姿見の池など歩くと、緑や湧水、珍しい鳥などが見られ、生きものを感じられる自然環境がある。

： 畑で採れた野菜（こくベジ）を買える環境にある。

： 地域によっては、お庭がきれいで花がたくさん植えられている。

弱み： 街路樹が少ない。近所の林がどんどん宅地化された。

： 竹林のある広い庭を持つお家が、ほとんど緑の無い複数の分譲住宅になっている。そのため、全体として緑が減少している。

： 子どもの頃に聞いていた虫の声も聞かなくなった。

野川の整備について

弱み：（下水道の整備により）大雨による水害などが起きなくなったため、野川の整備が進まない。

■ 改善策： 未来の国分寺の自然環境をよりよくするためのアイデア

取り組むべきこと

- ・ 農業の支援による農地の保全。
- ・ 国分寺の自然の魅力を保全する。
- ・ 地元野菜（こくベジ）の普及のためにマルシェなどのイベント（バーベキュー等）を行う。
- ・ 都へ野川の整備を要請する。
- ・ 公園の整備によるみどり率の減少対策を講ずる。
- ・ 公園に生きものの写真など掲示板の設置。
- ・ 子どもや大人も川遊びのできる場所を整備する。
- ・ 建物の空きスペースで植物を育てる。

情報提供の在り方について

- ・ 環境への活動と子どもを繋ぐ架け橋がほしい。
- ・ 若者と子どもが環境への取組を行うきっかけづくりを整備する。
- ・ 学校へ学生が参加できるイベントの告知や動画配信などが必要である。
- ・ 一方で情報過多により必要な情報が必要な人に届かない状況が生まれているため、ネットだけに頼らない情報提供の形式を考える必要がある。
- ・ 東京経済大学の新次郎池（の情報）に触れる機会が少ない。

C グループ

■ 現状の課題整理： 私たちが思う、国分寺の自然環境の「強み」と「弱み」

水について

強み：湧水や緑地が、自然豊かで、玉川上水との水路跡等の歴史資源がある。

緑・公園について

強み：緑が多く、武蔵国分寺公園といった広い公園があり、武蔵国分寺公園では新たな公園管理が成功している。

弱み：大きな公園の数や街路樹が少なく、緑の保全に地域差がある。

：樹林地の保全が不十分な状況にある。

農地について

強み：農地が多いので食が豊かになる。

：農地をタネ地とした良好な開発が進んできた。

弱み：農業推進という側面では、実際には農地が減少している。

環境学習について

強み：自然が豊かなので小さい頃から自然を学ぶことができる。

：環境問題に取り組んでいる市民団体が多い。

その他について

強み：散歩のしやすい環境がある。

：珍しい生きものが生息している。

■ 改善策： 未来の国分寺の自然環境をよりよくするためのアイデア

取り組むべきこと

- ・ 農業収益の向上のためにも、農地が宅地化されないような取組が必要である。
- ・ 農地を保全するために生産緑地制度の市独自運用（規制を強める）が必要である。
- ・ 開発行為に対してみどり率の低下を防ぐ対策を講じるべきであり、そのためにも土地の公共性をより重視する必要がある。
- ・ 農業用水路等を復活させて緑地空間として活用する。また、環境教育・環境学習の場にすることも有効である。
- ・ 自宅の庭の緑化やマンションの屋上緑化の推進が必要。
- ・ 樹林地の木材の地産地消を推進すべきである。
- ・ 今まで以上に行政と市民団体が樹林地などの緑地保全を協働で行う。
- ・ 駅近くにもう少し緑を増やす。
- ・ まちなかの緑を増やす方法として、植樹キャンペーンはどうか。
- ・ 植樹には様々な樹種を選定すると良い。

D グループ

■ 現状の課題整理： 私たちが思う、国分寺の自然環境の「強み」と「弱み」

歴史の魅力について

強み：旧石器時代の縄文遺跡をはじめ、武蔵国分寺や国分寺崖線といった遺跡や文化財の宝庫である。

弱み：国分寺崖線や武蔵野台地、野川、遺跡等の魅力が市内の学生を含め伝わっていない。

保全活動・保全状況について

強み：保全活動によって野生生物が守られ、希少種が繁殖を続けている。

：自宅からの徒歩圏内で生きものや緑を目にすることができる場所がある。そうした環境があることで若い人が増え、環境に関心が高くなるのではないかな。

緑・農地・地産地消について

強み：新鮮な地域野菜（こくベジ）の地産地消が盛んにおこなわれている。

：市内に自然が様々な箇所に点在している

弱み：内藤や北町など自然の少ない地域がある。

水・野川について

強み：姿見の池緑地や湧水、野川など、緑が多く、水がきれい、空気もきれい。

：清水川などでは、季節が感じられ、避暑地もある。

弱み：小金井市のように野川で遊べる環境がなく、市民は望んでいるのに整備が進まない。若者に期待したい。

■ 改善策： 未来の国分寺の自然環境をよりよくするためのアイデア

- ・ 野川の整備を市民と行政が協力して促進しなければならない。
- ・ 体験型のイベントが少ない。
- ・ 姿見の池の泥さらい（かいぼり）を市民活動として、市がイニシアチブをとって実施すべき。
- ・ 市が主体となって、自然環境の魅力を、動画配信やイベントなどでPRすると良い。
- ・ ワクワクできる体験型のイベントが少ない。
- ・ 学生が市の魅力を認知していないため、授業等を通じた遺跡等の歴史資源や国分寺崖線といった魅力を普及する。
- ・ 学校の参画として食堂にこくベジを使った料理を提供する。
- ・ 受動的に情報を得られない状況にある大学生などに教育の機会を与えるべきである。

テーマ2「循環型社会」

Aグループ

■ 現状の課題整理：循環型社会の形成に向けた現状(取組の実践例・問題点)

3Rの取組について

問題点：生ごみの拠点収集に参加をしているが、拠点が少ない。PR不足。

分別について

実践例：白色トレイはスーパーのリサイクル回収箱に捨てている。

：もやせるゴミ・もやせないゴミ，ペットボトル，プラスチックトレイは分別している。

：レトルト袋の汚れを落としてリサイクルに出している。

：ごみ分別アプリを使っている。

：粗大ごみについては，市が提供するサービスを利用している。

問題点：紙マークは古紙回収に出せるとは限らない。

：リチウムイオン電池は回収ボックスに捨てていいのかわからないことがある。

：回収日を遵守しているが，分別が大変で徹底することが難しい。

ポイ捨て・不法投棄について

問題点：ポイ捨ては大型のものは減少したが，ペットボトルやマスク，プラスチックごみが多くみられる。

：公園の目につかない所に不法投棄がある。

■ 改善策：国分寺で循環型社会を築いていくためのアイデア

分別について

- ・ 分別方法をより理解しやすく，シンプルにすべきである
- ・ 草刈後のヘドロの除去が必要である。
- ・ 外国の方や住民票を国分寺市に移していない人にも分別の案内が必要である。
- ・ DXを利用して行政サービスと市民の距離を縮めることも有効である。
- ・ 紙・デジタル・地域コミュニティなど多様な手段を活用して情報発信をすべきである。
- ・ ポイ捨てを抑制するため，駅やサービスエリアのあるようなゴミ箱を設置して管理してほしい。
- ・ 計画中のリサイクルセンターでプラスチックごみの自動分別化など民間委託を推進する。

ゴミの削減・リユースについて

- ・ 捨てられてしまうB級野菜をもっと利用すべきである。
- ・ リサイクル家具（本棚など）を提供する場をもっと増やしてほしい。

ライフスタイルについて

- ・ プラスチック袋削減のために，果物・野菜用のエコ袋や量り売りを推奨してはどうか。
- ・ 無駄や浪費をなくし，ごみをなくすゼロウェイストを基本としたライフスタイルに変えることが必要である。

B グループ

■ 現状の課題整理：循環型社会の形成に向けた現状(取組の実践例, 問題点)

3Rについて(ごみの減量)

実践例：ごみの減量：マイバックを持参している。

：不用になった布や服、タオルなどをウエス（使い捨ての雑巾）として再利用する。

：使わなくなったものをフリマアプリなどで売りリユースに取り組む。

：生ごみを自家処理して、たい肥化にして使用する。

分別について

実践例：ごみの分別の徹底をしている。

問題点：分別の判断が難しく、悩む時間を減らしたい。

：プラスチック製品でもプラマークの表示がないものの分別に迷うことがある。

その他について

実践例：節電としてこまめに明かりを消したり、使わないコードを抜いたりしている。

■ 改善策：国分寺で循環型社会を築いていくためのアイデア

3Rについて

- ・ 生ごみの自家処理については、たい肥化を促進し、庭に利用する。
- ・ 様々な方法を周知するとよい。
- ・ フードドライブは、生活が困難な人に目が向きがちであるが、1人暮らしの学生に評判が良く、学生に向けたフードドライブの促進も有効である。

分別について

- ・ 他市区町村ではプラスチックごみを焼却している自治体もあるが、国分寺市では、こまかく分別し資源化しているので続けるべきである。

情報提供について

- ・ 情報提供のバリエーションの充実が必要である。
- ・ スマートフォンの写真や、ごみ収集袋に記載した二次元コードから、分別方法が分かると良い。
- ・ デジタル弱者である高齢者などに向けては、ごみ・リサイクルカレンダーをより詳しくするなど、誰一人見捨てない姿勢が必要である。
- ・ 若者や高齢者へサポートとして、学生などには、大家などを通じて分別の知識を提供する、高齢者へは介護事業者が分別のサポートをする手段がある。なお、介護事業者が市外の場合もあるので、協力体制を整備する必要がある。
- ・ 高齢者の方でも不用品をインターネットで売買できるよう、フリマアプリなどの操作教室を開き、PRすることでリユースの推進を図るべきである。

C グループ

■ 現状の課題整理：循環型社会の形成に向けた現状(取組の実践例, 問題点)

3Rについて

- 実践例：ゴミの減量に向けた取組は評価できる。
：3Rの取組によって埋め立てるごみの量がほぼゼロはいいことだと思う。
- 問題点：可燃ごみの減量の取組の強化として、生ごみのたい肥化事業が重要である。
：学校教材のリユースができていない。
：リユース時にきれいにはコストがかかる。そのコストの負担が課題である。
：消費量は落ちても生産者側がプラスチックの使用を減らさないといけない。

分別について

- 実践例：スーパーと連携してごみの分別ができていてよい。
：トレイや牛乳パック、ペットボトルを販売店へ戻している。
：市は、飲料業者と協定を締結し、ペットボトルの水平リサイクル（回収したペットボトルを新しいペットボトルに再生する）の取組を実践している。
- 問題点：ゴミの分別区分の細分化を図ることはよいが、忙しい生活のなかで実践できない人もおり、分別が完璧でない人も見受けられる。

その他について

- 実践例：自治体間の連携によるごみ処理の共同化は良好である（日野市・小金井市との連携）

■ 改善策：国分寺で循環型社会を築いていくためのアイデア

分別について

- ・ 分別の負担に対する問題を解消しつつ、ゴミ区分の細分化の徹底ができるとうい。負担軽減策としてはスーパーなどと連携してできてほしいと思う。

ごみの回収方法について

- ・ 意識向上のためにごみを回収式から持参式に変えてはどうか。
- ・ ごみ袋自体も資源であるためドイツのようにコンテナに直接捨てる方式が有効ではないか。

ごみ袋の無料化について

- ・ 電気料金の従量制のように、家庭ごみの一定量までは無料で、段階的に手数料を上げる仕組みを導入できれば、消費枚数を意識し、ごみが減るのではないか。

啓発について

- ・ 市民の方が、循環型社会に興味を持ってもらう取組を増やすことが重要である。
- ・ 音楽フェスと共同で祭りにした方が、人が集まるので啓発できるのではないか。
- ・ 個人単位の成果指標で見える化できるとよい。
- ・ 生産者側のプラスチック生産量を開示する。
- ・ 環境教育を学校だけでなく市民全体に普及することが有効である。

生ごみについて

- ・ 生ごみの処理は個人の取組意識まかせである。
- ・ 生ごみ処理の普及と回収率を上げる必要がある。
- ・ もやせるごみとは別に生ごみを回収してたい肥化できると効率的ではないか。
- ・ 生ごみをたい肥にしたものを街中や公園緑化に使用する。

リユースについて

- ・ 学校教材のリユース情報やキャンペーン、
- ・ フリマアプリなどで使えるものの再利用できる仕組みを整備すべきである。

D グループ

■ 現状の課題整理：循環型社会の形成に向けた現状(取組の実践例, 問題点)

日々の個人での取組について

実践例：エコバックを持参している。

：生ごみを減らすため、庭の畑にコーヒー豆のかすをまいている。

：必要最低限のものしか買わない。

：多少の賞味期限が切れていても気にしない。

：ごみの分別を徹底している。

：ペットボトル、紙パック、発泡スチロールやトレイなどはスーパーへ返却している。

：太陽光で動くスマート家電を導入している。

：生ごみをたい肥化して家庭菜園に利用している。

：野菜はくずがでないよう使い切る。

：なるべく中古品の売り買いをしている。

集団で協力した取組について

実践例：賞味期限の早いものから購入する。

：大学でフードドライブのボランティアをしている。

問題点：落ち葉の再利用として、たい肥舎づくりが必要である。

：賞味期限に近いものを販売店で割引販売する。

：フードロス削減を促進する。

：マイクロプラスチックの問題は、私たちに帰ってくる。

■ 改善策：国分寺で循環型社会を築いていくためのアイデア

循環拠点について

- ・ 生ごみの回収拠点が6地点と少ないので、拠点を増やす。
- ・ 八王子市の段ボールコンポスト等のように、生ごみたい肥化の取組を強化する必要がある。
- ・ 野菜は、農家の直売所で購入するのでごみがでない。

分別の理解について

- ・ 市清掃センターが廃止されて社会見学ができない。
- ・ 小中学生や高校生を含め、ごみ処理を見学する機会を創出し、なぜ分別しないとイケないのかを実感してもらう取組が重要である。
- ・ SDGs 祭り、国分寺まつり、ぶんぶんウォークなど、イベントを通じて正しい3R（特に2Rが大切）についての知識を普及することが重要である。

事業者との協力について

- ・ リサイクル推進協力店が非常に少ない。
- ・ ごみ減量に取り組む店舗を協力店として認可する。
- ・ 容器包装プラスチック協会に協力してもらう。
- ・ 協力してくれる事業者の増加に向けた取組が必要。
- ・ ごみの減量による効果を数値化して市民にも実感してもらうことが重要である。
- ・ ごみの収集業者と見守り事業の連携により、ごみ捨てが困難な高齢者への対応が必要。